

研究資料

関西福祉大学の谷川ゼミ会報について

Analytical note on the bulletins of Tanikawa's seminar

谷川 和昭

要約：ゼミ会報は学生と教員の双方にエンパワメントをもたらすのかどうかについて確認することを目的に調査を実施した。2009年12月に当該ゼミ生に対して、無記名の質問紙調査を行ったところ、ゼミ会報は学生にとって、読んで良かったものであったこと、好感が持てたこと、参考になっていたことが明らかになった。しかし、仲間とのコミュニケーションにはさほど役立てられていないことが明らかになった。また、今後に期待をかけるものは過半数を超えているが、継続していく上での課題も垣間見られた。さらに、関心を持って読んでもらった記事は各号最初の記事もしくは学生にとって身近な内容であることがうかがえた。以上のことから、まとめると、ゼミ会報の編集・発行は、学生にとっても教員にとっても、ささやかながらもエンパワメントの維持向上につながっていたことが確認できると結論づけられる。

Key Words：ゼミ会報、質問紙調査、エンパワメント、教育研究活動

I. 目的

本小稿は、筆者の教育実践のささやかな取り組みの一環の1つをアンケートを交えてまとめ上げたものである。

さて、筆者が小学生の頃であるが、学級だより、学級通信、学級新聞、等々があったように記憶している。それらを受け取り読んだときに妙に嬉しさを感じていた。その頃の懐かしさというものに耽ってしまったわけではないのだが、それを受け取る側は多少は嬉しくも感じられるものであると考える。

そのような想いもあって、ともかく今年度筆者はゼミ会報づくりに取りかかってみようと思立った。これはゼミにおける学習の取り組みや筆者が関わることになった教育研究活動を何らかの形に残しておきたいという気持ちもあって始めたものである。

今年度より取り組み始めているゼミ会報は、創刊号を2009年5月12日、第2号を同年7月20日、第3号を同年10月30日に発行している。発行日は恣意的に決めているが、それぞれに意味合いがある。たとえば、創刊号は「看護の日」であり「民生委員の日」でもある。本

研究紀要が発刊される頃には完結号を発行しているかもしれないが、意味づけを検討したいとも思っている。

各号がA4表裏2頁のこのゼミ会報であるが、その作成には1号につきおおよそ6～7時間かかっている。作成への原動力となっているのは、筆者が受け持つゼミの学生の存在が大きい。起爆剤とは言わないまでも、学習活動の何らかの足しにしてもらえたらという思いがある。そして、教員としての活動記録を幾ばくか保存できるのではないかという思いもある。

ゼミ会報の目的と意義は、1つには筆者が受け持つゼミ生へのエンパワメント¹⁾、そしてもう1つには筆者自身のエンパワメントがあると言えるであろう。このことの確認ができればと考え、今回は簡単なアンケートを実施したので、ここにその分析結果を報告することにした。

II. 方法

1. 調査対象

2009年度本学社会福祉学部谷川ゼミの3回生15名と4回生7名を対象に質問紙調査を実施した。このうち3回生1名の回答に選択肢の矛盾など不備がみられたため除外した。よって、分析の対象は3回生14名と4回生7名の合計21名とした。男女比は男子学生が47.6%、

女子学生が52.4%，年齢平均は20.9歳±0.62歳であった。

2. 調査時期

2009年12月1日，3回生および4回生の当該授業時の冒頭で実施した。

3. 調査内容

調査にあたっては「ゼミ会報についてのアンケート」を作成し使用した（表Ⅱ-1）。ここにみられるように，質問項目は，①会報をどう思うか，②どのようなイメージを抱いたか，③大学生生活のヒントにつながるか，④学習へのモチベーションに影響したか，⑤ゼミ内外のコミュニケーションに影響したか，⑥今後の会報に期待するか，⑦関心を持って読んだ記事は何か，などを問うものとした。

なお，谷川ゼミ会報の既報の号はいずれもA4表裏の1枚ものであることは先に述べたとおりであるが，現物はカラー刷りのものを編集・発行するようにしている（図Ⅱ-1, 2, 3）。

表Ⅱ-1 質問紙調査の内容

ゼミ会報についてのアンケート				
今年度より編集・発行を始めた「谷川ゼミ会報」ですが，あなた自身のお考えをおたずねいたします。統計的に処理しますので実名等が公表されることは一切ございません。次号以降の会報記事や教育研究活動（学会発表や論文発表を含む）に反映させていただきます。ご賛同いただけましたら，どうぞご回答ください。				
Q1. 会報をどう思いますか	全号	創刊号	第2号	第3号
読まなきゃ損!	1	1	1	1
読んで良かった	2	2	2	2
読まなくてよい	3	3	3	3
読む意味がない	4	4	4	4
Q2. 会報にどのようなイメージを抱きましたか	1 とても好感が持てる	2 少し好感が持てる	3 あまり好感が持てない	4 ほぼ好感が持てない
Q3. 会報は大学生生活のヒントにつながるものでしたか	1 大いに参考になる	2 少し参考になる	3 あまり参考にならない	4 ほぼ参考にならない
Q4. 会報は学習へのモチベーションに影響を与えましたか	1 とても上がる	2 少し上がる	3 若干下がる	4 かなり下がる
Q5. 会報はゼミ内外のコミュニケーションに影響を与えましたか	1 とても役立つ	2 少し役立つ	3 あまり変化しない	4 全然変化しない
Q6. 今後の会報に期待するものはありますか	1 大いにある	2 少しある	3 あまりない	4 とくにない
Q7. あなたが関心を持って読んだ記事がありましたら，当てはまるものすべての口欄にレ印を入れてください。 (創刊号)	7-1 <input type="checkbox"/> 初回の社会福祉援助技術演習の授業はこう行われた			
	7-2 <input type="checkbox"/> 携帯で 初めに撮影した集合写真			
	7-3 <input type="checkbox"/> 卒論、国試、就活 三本柱に挑む七人の学生			
	7-4 <input type="checkbox"/> 輝ける星に…「ラッキースター」を形作ろう			
	7-5 <input type="checkbox"/> 社会福祉士国家試験 先輩から後輩へのメッセージ			
	7-6 <input type="checkbox"/> 「相談援助演習」に込められた想いとは？			
	(第2号)			
	7-7 <input type="checkbox"/> ソーシャルワーカー 祝日の「海の日」に決定			
	7-8 <input type="checkbox"/> 演習Ⅳ、七人の学生がゼミのあり方を議論			
	7-9 <input type="checkbox"/> 卒論テーマ出揃う			
	7-10 <input type="checkbox"/> 社会福祉援助技術演習 近況報告			
	7-11 <input type="checkbox"/> セミに何を願う？ Ⅳゼミ 国試全員合格 Ⅲゼミ 実習・演習の目標達成			
	7-12 <input type="checkbox"/> 出張話～悲喜交々			
	(第3号)			
	7-13 <input type="checkbox"/> 人財・人材・人界の違いを知る			
	7-14 <input type="checkbox"/> 地域社会福祉政策研究所主催 学術講演会 十二月に			
	7-15 <input type="checkbox"/> 社会福祉士実習指導者講習会 (厚生労働省委託)			
	7-16 <input type="checkbox"/> 和やかな、そして 和やかに			
	7-17 <input type="checkbox"/> ピアスーパービジョンで始まる 後期最初の援助演習 (Ⅲゼミ)			
	7-18 <input type="checkbox"/> 日本福祉図書文獻学会第十二回全国大会に参加 (Ⅳゼミ)			
Q8. 年齢、性別、学年についてもお願いします。 年齢： () 歳 性別： 1. 女性 2. 男性 学年： 1. 3回生 2. 4回生				
Q9. 最後に、よろしければ何一言お書き入れください。				

ご協力ありがとうございました。

4. 分析方法

統計ソフト SPSSver.15 を用いて，質問紙について単純集計を行い分析した。グラフの作成については三四郎2005を用いて行った。

5. 倫理的配慮

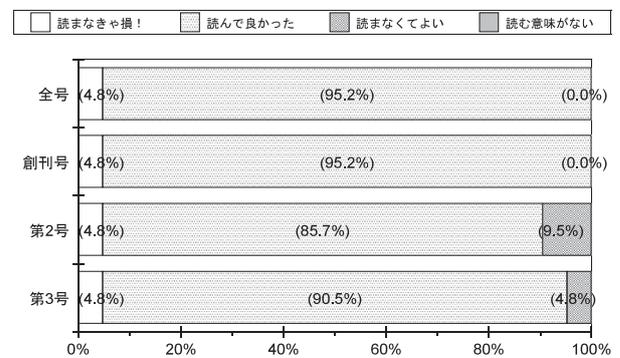
質問紙上に，統計的に処理するので実名等が公表されることは一切ないこと，次号以降の会報記事や教育研究活動に反映することなどを明記し，賛同してもらえる場合に回答を求めた。以上のことを口頭で説明するとともに，無記名であるので成績評価には関係ないことも付け加えた。

なお，ゼミ会報への記載内容等についてはその都度，当該学生より了解を得ている。

Ⅲ. 結果

1. ゼミ会報をどう思うか

全号，創刊号，第2号，第3号のいずれも「読んで良かった」が最も多く，それぞれ95.2%，95.2%，85.7%，90.5%であった。「読まなくてよい」が第2号で9.5%，第3号で4.8%あった。「読まなきゃ損！」はいずれの号も4.8%であった（図Ⅲ-1）。



図Ⅲ-1. 会報に対する思い

2. どのようなイメージを抱いたか

「少し好感が持てる」が71.4%で最も多く，次いで「とても好感が持てる」が28.6%であった。「あまり好感が持てない」「ほぼ好感が持てない」の回答はなかった。

3. 大学生生活のヒントにつながるか

「少し参考になる」が76.2%で最も多く，次いで「あまり参考にならない」が19.0%，続いて「大いに参考になる」が4.8%であった。「ほぼ参考にならない」の回答はなかった。

2009年7月20日発行
関西福祉大学
KANSAI UNIVERSITY OF SOCIAL WELFARE

谷川ゼミ会報 第2号

ソーシャルワーカーデー 祝日「海の日」に決定

「ソーシャルワーカーデー」を創設する「11」が研究室に響い込んで来た。社会福祉関係の全国的な連携団体と社会福祉従事者養成教育機関・施設・社会福祉問題研究学会の十七団体で構成される「ソーシャルワーカーデー」は、今年7月20日である「海の日」(本年は七月二〇日)を定めるのである。

この日は社会福祉士をはじめとするソーシャルワーカーの社会協賛、社会的地位の向上には大切な契機となるものである。「ソーシャルワーカー」に対する国民の理解と関心が深ければ、福祉の輪も広がるまいものなことを期待します。



とくして「11」ソーシャルワーカー「11」は今年「海の日」に決まったのである。上記の研究協会の諸団によれば、「ソーシャルワーカー」は「全くの空海」に「国策がない」ことである、力強く(海には「11」がある)、かけがえのない存在として(海は人縁の母国と云ふ)、支障する事象を克服するところからその象徴として「11」ソーシャルワーカー「11」を認定したという。

これは社会福祉教育を担う「福祉士塾」(岡田藤太郎氏の遺志)を想起させるものがある。「ソーシャルワーカー」はこの国のこの地域にも必要不可欠な人材である。

なお「11」ソーシャルワーカーという用語は「1100」年頃に教養者の「11」が「11」に用いた。ソーシャルワーカーが行う援助活動のことを「11」ソーシャルワーカーというが、その語源は「個々の人間の尊厳を尊重し、社会福祉に際する専門技術を行使し、生活上の問題を抱え持つ人々に向き合い、寄り添い、一線にならざるに留意し、その人々の生活を支援していく事」である。

演習Ⅳ、七人の学徒がゼミのあり方を議論

六月三日(火)の午15:00から16:00までゼミ活動を行いました。今回は「演習Ⅳ」をテーマに、七人の学徒がゼミのあり方を議論しました。議論の中心は「ゼミの目的」「ゼミの役割」「ゼミの運営」などについて、各々が自分の考えを述べ、互いに意見を交わしました。

全員の意見を聞き、ゼミのあり方を再考しました。特に「ゼミの目的」については、単に知識を教えるだけでなく、実践的なスキルを身につけさせることが重要であると認識しました。また、「ゼミの運営」については、互いに協力し合い、主体的に取り組むことが大切であると話し合いました。

卒業生への挨拶

卒業生への挨拶は、六月十日(土)に行われました。卒業生は、ゼミで学んだことや、今後の生活について話しました。また、ゼミ生からのメッセージも届きました。卒業生は、ゼミでの経験が今後の人生に大きく影響を与えていると話していました。ゼミ生も、卒業生への感謝の気持ちを伝えました。

そのための方法
◎問題を抽出する
○小テスト後に点数を言い合う
△イベントを盛り込む
△ゼミ前に課題を出す
△アイスブレイクを行う
◎みんなに話し掛ける
◎自主ゼミ(勉強会)を開催する
◎質問、疑問を尋ねる

「11」ソーシャルワーカーデーの開催に向けて、ゼミ生は様々な取り組みを行っています。例えば、地域での実践活動や、専門的な勉強会などです。また、卒業生への挨拶や、ゼミのあり方に関する議論も進んでいます。今後も、ゼミ生は互いに支え合い、成長を遂げることを目指しています。

社会福祉援助技術演習 近況報告

授業の振り返りレポートから (五月〜七月)

相手の目を追って話すのはとても難しいです。それによって信頼関係が形成されるのか分かった。今後、目を追って話すようにしたいです。(藤田 恵)

たくさんのお話を聞きました。日中から少し疲れてきたりしますが、少し眠れず、朝まで起きています。でも、少し眠れず、朝まで起きています。でも、少し眠れず、朝まで起きています。(三浦 佳寿)

今日の演習での「11」ソーシャルワーカーの役割が、ますます難しくなっています。でも、自分の役割が、ますます難しくなっています。でも、自分の役割が、ますます難しくなっています。(高橋 真由)

表情で今の気持ちを表現するのは難しいです。自分の気持ちを表現するのは難しいです。でも、自分の気持ちを表現するのは難しいです。でも、自分の気持ちを表現するのは難しいです。(中野 孝臣)



レポートは、何かと大変な作業です。でも、自分の役割が、ますます難しくなっています。でも、自分の役割が、ますます難しくなっています。(三浦 佳寿)

はじめの方は、内職がわからなくて困りました。でも、自分の役割が、ますます難しくなっています。でも、自分の役割が、ますます難しくなっています。(山本 真季子)

今日は、11月20日です。今日は、11月20日です。今日は、11月20日です。今日は、11月20日です。(中野 孝臣)

今日は、11月20日です。今日は、11月20日です。今日は、11月20日です。今日は、11月20日です。(中野 孝臣)

今日は、11月20日です。今日は、11月20日です。今日は、11月20日です。今日は、11月20日です。(中野 孝臣)



七夕に何を願う?

Ⅳゼミ 国語学習情報

Ⅲゼミ 実習・演習の目標達成

短冊に願い事を書いたのは何年振りのことだろうか。七月七日(七夕)には、短冊に願い事を書いたのは何年振りのことだろうか。七月七日(七夕)には、短冊に願い事を書いたのは何年振りのことだろうか。七月七日(七夕)には、短冊に願い事を書いたのは何年振りのことだろうか。(中野 孝臣)



学生出陣 感謝状

新年から続いた日々が続いている。その中で、最も大切な日々が続いている。その中で、最も大切な日々が続いている。その中で、最も大切な日々が続いている。その中で、最も大切な日々が続いている。(中野 孝臣)

全国大会の晴りの道中、熊本駅で熊本県11人組を応援し、優勝しました。これは、私たちの努力の結晶です。これからも、努力を怠りません。(中野 孝臣)

今日は、11月20日です。今日は、11月20日です。今日は、11月20日です。今日は、11月20日です。(中野 孝臣)

今日は、11月20日です。今日は、11月20日です。今日は、11月20日です。今日は、11月20日です。(中野 孝臣)

今日は、11月20日です。今日は、11月20日です。今日は、11月20日です。今日は、11月20日です。(中野 孝臣)

今日は、11月20日です。今日は、11月20日です。今日は、11月20日です。今日は、11月20日です。(中野 孝臣)

今日は、11月20日です。今日は、11月20日です。今日は、11月20日です。今日は、11月20日です。(中野 孝臣)



4. 学習へのモチベーションに影響したか

「少し上がる」が90.5%で最も多く、次いで「とても上がる」が9.5%であった。「若干下がる」「かなり下がる」の回答はなかった。

5. ゼミ内外のコミュニケーションに影響したか

「あまり変化しない」が61.5%で最も多く、次いで「少し役立つ」が33.3%、「とても役立つ」が4.8%であった。

6. 今後の会報に期待するか

「少しある」が61.9%で最も多く、次いで「あまりない」が28.6%、続いて「大いにある」「とくにない」が4.8%であった。

7. 関心を持って読んだ記事

創刊号記事の「初回の社会福祉援助技術演習の授業はこう行われた」が90.5%と最も多く、次いで同じく「社会福祉士国家試験 先輩から後輩へのメッセージ」が81.0%、続いて同じく「卒論、国試、就活 三本柱に挑む七人の学徒」が57.1%であった。

第2号記事では、「七夕に何を願う? IVゼミ 国試全員合格 IIIゼミ 実習・演習の目標達成」が52.4%で最も多く、次いで「卒論テーマ出揃う」が33.3%、続いて「演習IV、七人の学徒がゼミのあり方を議論」が23.8%であった。

第3号記事では、「人財・人材・人罪の違いを知る」が42.9%と最も多く、次いで「日本福祉図書文献学会第十二回全国大会に参加(IVゼミ)」が38.1%、続いて「ピアスーパージョンで始まる 後期最初の援助演習(III

ゼミ)」が19.0%であった。

一方、「輝ける星に…『ラッキースター』を形作ろう」「学会出張～悲喜交々」「地域社会福祉政策研究所主催 学術講演会 十二月に」「和やかな、そして 和やかに」は4.8%と最も少なかった(図Ⅲ-2)。

8. 自由回答について

- 7名より、以下の回答が寄せられた。
- ・続けていくのは良いことだと思います。頑張ってください。適度に。
- ・読むのは楽しいし、思い出に残るので嬉しいです。
- ・残り少ないですが、楽しく頑張りましょう。
- ・内容もわかりやすく読みやすいです。
- ・先生の熱心さが伝わってくる会報と思います。
- ・読んで参考になることもありました。また、自分の文章が載った時は嬉しく思いました。続けて欲しいと思います。
- ・ありがとうございました。

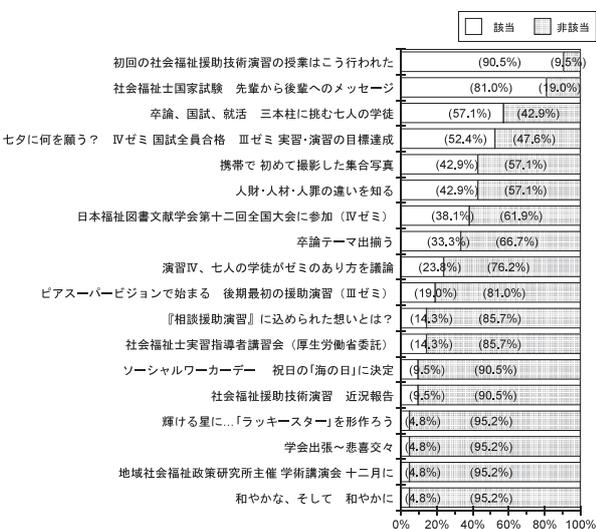
IV. 考察

アンケート調査の結果から、学生はゼミ会報を「読んで良かった」と思っていることがわかる。また、抱くイメージも「好感が持てる」ものであったことが認められた。また、大学生活の「参考になる」と回答したものが8割を上回り、全員が学習への動機付けになったといえる。

しかしながら、ゼミ会報が仲間とのコミュニケーションに役立つものであったかどうかは定かではない。これは質問紙のワーディング²⁾において、「ゼミ内外のコミュニケーション」と表記し、「ゼミ内のコミュニケーション」とせずにダブルバーレル³⁾の形式をとったことにその要因があるかもしれない。

今後の会報への期待については6割強のものが持っているが、特に期待しないものも3割弱見られる。会報の編集・発行を継続・改善していく上での課題が、この後者の結果に潜んでいるように感じられる。

さて、関心を持って読んでもらった記事についてであるが、ベスト3をすべて創刊号の記事で占めていた。創刊号は学生にとってそれほどインパクトがあったのであろう。筆者自身にとって創刊号というのは、学生にこのゼミ会報を肯定的に受け入れてもらえるかどうかの試金石であったが、勇気づけられる雰囲気教室が包まれ



図Ⅲ-2. 関心を持って読んだ記事(複数回答)

ていたことが、その後の第2号、第3号の編集・発行の牽引となったことは間違いない。このように述懐できるが、いずれにせよ、紙面の最初の記事や学生にとって身近に感じられるものほど関心を持って読んでもらえるのだということが分析結果からは読み取れる。メッセージ性の強いものを今後どう発信していくかが課題といえよう。

おわりに、ゼミ会報は思わぬ副作用をもたらした。編集・発行した後には、毎号しばらく研究室のドアに掲示してきたことから、他ゼミの教員や学生、他大学の教員とのコミュニケーションにも活かされた。また、教育懇談会においても、本学社会福祉学部教育を、教員がどのような想いで実践しているかについて、保護者には具体的に理解していただける材料にもなったと思われる。今後も研究だけではなく、教育への熱い想いを心に秘めつつ、学内外に伝え続けられたらと考えている。そして、今年度のゼミ会報の編集・発行というものが、学生にとっても教員にとっても、ささやかながらも元気の素、パ

ワーの素になっていたことをここに確認し、筆を置くことにしたい。

注

- 1) エンパワメントとは、相手が本来持っている力を引き出すこと、あるいは本来の姿を取り戻してもらう過程を意味する。谷川和昭「地域福祉の体系」井村圭壯・谷川和昭編『地域福祉分析論』学文社、2005年、p.10
- 2) 質問文を作成することであるが、たとえば「質問文の作り方や言葉づかい」といった記述がなされている次の文献等が参考になる。坂田周一『社会福祉リサーチ』有斐閣、2003年、p.110
- 3) ダブルバーレルとは、2連発のことで、「あなたは、みかんやりんごが好きですか」というように、2つの論点を同時にたずねることである。みかんが好きだけれどもりんごが苦手である場合には回答しにくい。なお、本調査におけるワーディングでは、当初、「ゼミ内外」という表現はダブルバーレルに相当しないと判断していた。しかしながら、結果的には相当するものであったと推察される。同掲書3、p.109

